

昭和55年度帰国研修員巡回指導

ハイウェイセミナー  
帰国研修員巡回指導班報告書  
(エジプト、トルコ)

1981.3月

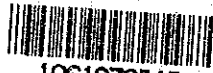
国際協力事業団  
研修事業部

405  
71  
TAD

研 管
JR
81-004



JICA LIBRARY



1061972[4]

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 4. 17	405
登録No. 03533	71
	TAD

## ま え が き

この報告書は、国際協力事業団が実施したハイウェイセミナーに参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、去る2月17日より3月6日までの18日間、エジプトおよびトルコに派遣した帰国研修員巡回指導班の業務報告である。

本報告書により、帰国研修員の母国における活動状況、研修員受入事業およびフォローアップ事業に対する要望事項等について関係各位のさらに深いご理解をいただき、今後これらの事業の向上改善に資することができれば幸いである。

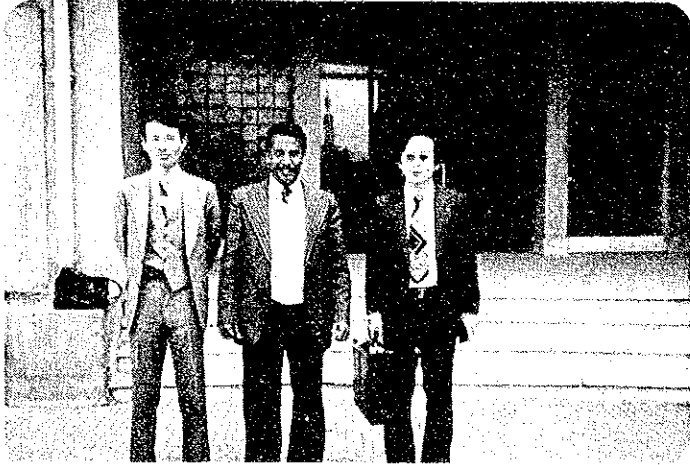
なお、本巡回指導班の派遣に際し、並々ならぬご協力を賜った外務省、建設省の各当局および現地において数々のご協力を賜った在外公館ならびに事業団海外事務所の各位に深い感謝の意を表します。

昭和56年3月

国際協力事業団研修事業部長

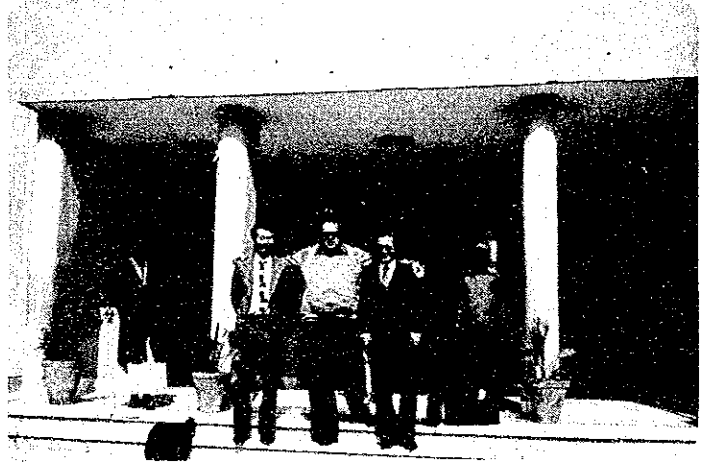


※ エジプト



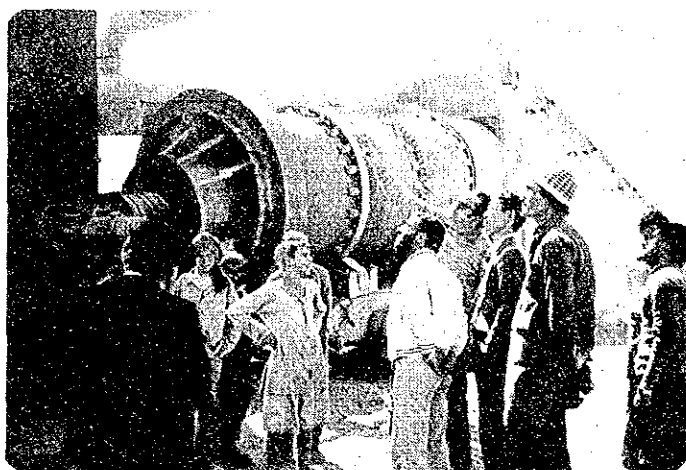
Central Zone Office (Nasr City) of  
General Organization for Roads and  
Bridgesにて昭和54年度帰国研修員  
Mr. Aballah Mangoud El Saadanyと面談  
(2月19日)

Canal and Sinai Zone Office (Ismailia)  
of General Organization for Roads  
and Bridgesにて昭和53年度帰国研修員  
Mr. Safwat Kamel Minadousと面談  
(2月22日)



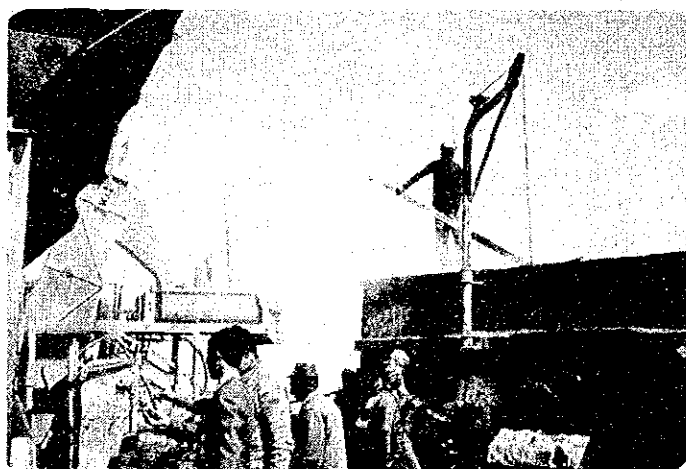
Mr. Safwatの案内により現場視察  
①アスファルト舗装工事(2月22日)  
(左はJICAカイロ事務所 藤田所員)

現場視察② アスファルトプラント(2月22日)



現場視察③ 現場事務所にて(2月22日)

現場視察④ アスファルトプラント(2月22日)



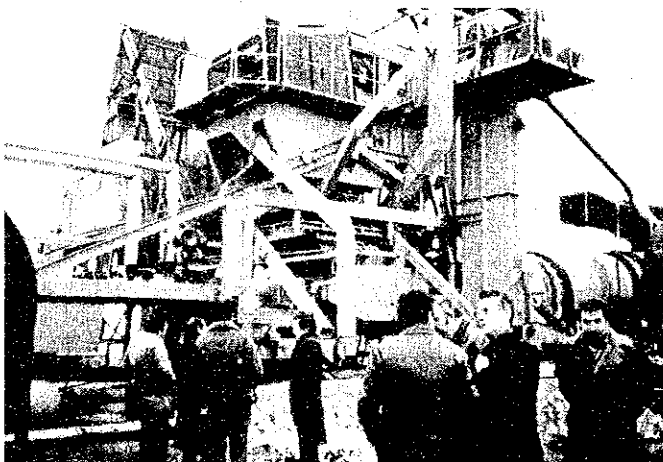


※トルコ

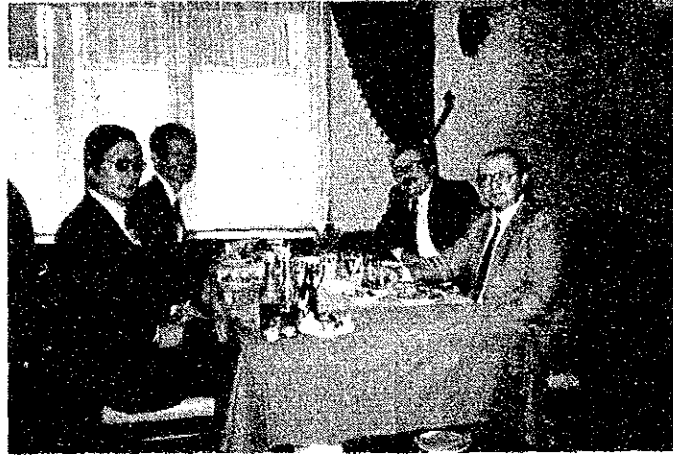


Mr. Nazmi Zarif, Director of Second Division in General Directorate of Turkish Highways を表敬訪問 (2月25日)

Research Department of Second Divisionにて昭和55年度帰国研修員 Mr. Ersoy Özer 及び関係者と面談 (2月25日)



Mr. Ersoy の案内により  
現場視察 (アスファルトプラント)  
(2月25日)



昭和48年度帰国研修員Mr. Sarafettin Uzuner及び昭和49年度  
帰国研修員Mr. Tankut Balkirと懇談(2月27日)



昭和42年度帰国研修員Mr. Ozcan Saffettin Sileと面談(3月2日)

# 目 次

I	巡回指導の概要	1
1.	派遣の目的	1
2.	指導班の構成	1
3.	派遣国および期間	1
4.	日 程	1
5.	調査方法	3
II	ハイウェイセミナーの概要と経緯	4
1.	ハイウェイセミナーの概要	4
2.	研修員受入の概要	4
III	各国別調査内容	6
1.	概 要	6
2.	エジプト	6
3.	トルコ	9
IV	調査結果のとりまとめ	14
1.	帰国研修員の活動状況とハイウェイセミナーに対する評価	14
2.	研修員受入事業に関する提言	14
3.	フォローアップ事業に関する要望	15
V	結 論	16
資 料		
1.	旅行経路国	17
2.	帰国研修員への質問書	18
3.	帰国研修員名簿	20
4.	エジプトにおける業務報告書	22
5.	トルコにおける業務報告書	25
6.	昭和55年度ハイウェイセミナースケジュール	29



# I 巡回指導の概要

## 1. 派遣の目的

国際協力事業団は建設省道路局ほか関係機関の協力を得て、発展途上諸国の人材育成に寄与することを目的として、昭和39年度から主として道路建設技術者を対象とするハイウェイセミナーを開催している。

昭和55年度までにハイウェイセミナーは16回開催され32ヶ国200名の研修員が参加している。

今回の帰国研修員巡回指導班は、エジプトおよびトルコの帰国研修員の所属機関および道路行政を所管する関係機関を訪問し、また帰国研修員と懇談することによって、帰国研修員の動向、研修に対する評価、今後の研修計画に対する要望、提言、フォローアップ事業に対するニーズ、道路行政に係る問題点等を把握し、今後の研修員受入事業およびフォローアップ事業の向上改善に資することを目的として派遣されたものである。

## 2. 指導班の構成

藤原 稔 建設省道路局国道第二課課長補佐  
石田 幸男 国際協力事業団研修事業部研修第一課

## 3. 派遣国および期間

派遣国 エジプトおよびトルコ  
派遣期間 昭和56年2月17日～同年3月6日(18日間)

## 4. 日 程

日順	月日(曜日)	時間	行 程	内 容
1	2月17日(火)	11:50	東京発	JL463, バンコック, ニューデリー, アブダビ経由
2	2月18日(水)	2:30	カイロ着	JICAカイロ事務所藤田職員の出迎え
		13:00	JICAカイロ事務所表敬訪問	後藤所長へあいさつ, 日程の打合せ
		14:00	在エジプト国日本国大使館表敬訪問	木原一等書記官へあいさつ及び打合せ
		15:00	JICAカイロ事務所	帰国研修員及び所属先についての打合せ
3	2月19日(木)	10:00	帰国研修員所属先訪問  帰国研修員と面談及び懇談会	Director of Central Zone Office(Nasr City)in General Organization for Roads and Bridgesへあいさつ 昭和54年度帰国研修員Mr.Aballah Mangoud El Saadany

日順	月日(曜日)	時間	行 程	内 容
4	2月20日(金)	16:00~	現場視察	Mr.Saadany 案内によりハイウェイ現場視察
		21:30~	JICA 植原調整員と打合せ	エジプト一般事情について
		7:30 19:00	現場視察	カイロ〜アレキサンドリア間ハイウェイ視察(砂漠道路, 農業道路)
5	2月21日(土)	9:00	現場視察	カイロ市内橋梁関係視察
6	2月22日(日)	14:00	ハイウェイ一般につき事情聴取	Dr.Nabil Sehsah (パシフィック・コンサルタンツ)と打合せ
		9:00	カイロ→イスマエリア移動	ハイウェイ視察
		11:00	帰国研修員所属先表敬訪問	Canal and Sinai Zone Office(Ismaila)in General Organization for Roads and Bridges 訪問
7	2月23日(月)	18:00	帰国研修員と面談及び懇談会	昭和53年度帰国研修員Mr.Safwat Kamel Mina-deus と面談
			現場視察	Mr.Safwatの案内によりイスマエリア〜スエズ運河間ハイウェイ視察及び工事現場視察
		18:00		
8	2月24日(火)	午前	資料整理	業務報告書作成
		13:00	JICA 事務所訪問	業務報告及び報告書提出
		14:00	在エジプト国日本国大使館訪問	木原一等書記官へあいさつ
9	2月25日(水)	14:00	カイロ 発	KL556(カイロ空港砂あらしの為半日遅れて出発)
		17:30	イスタンブール着	在トルコ国イスタンブール総領事館作永派遣員の出迎え
		9:30	在トルコ国イスタンブール総領事館表敬訪問	渡辺領事へあいさつ, 中軽米領事へあいさつ, 日程の打合せ
10	2月26日(木)	12:30	イスタンブール発	TK326
		13:20	イズミール着	
		14:00	帰国研修員所属先表敬訪問	Mr.Nazmi Zarif, Director of Second Division in General Directorate of Turkish Highways へあいさつ
11	2月27日(金)		帰国研修員と面談	昭和55年度帰国研修員Mr.Ersoy Özer と面談
		19:30	現場視察	Mr.Ersoyの案内によりイズミール〜アンカラ間約90km地点の工事現場視察
		20:00	帰国研修員の招待夕食会	Mr.Ersoy 家にて夕食
10	2月26日(木)	7:00	イズミール発	TK202
		8:10	アンカラ着	在トルコ国日本国大使館デニム氏の出迎え
		10:30	在トルコ国日本国大使館表敬訪問	西宮特命全権大使へあいさつ, 川崎公使へあいさつ, 高本館員と日程打合せ
11	2月27日(金)	14:00	現場視察	アンカラ市内ハイウェイ視察
		10:00	帰国研修員所属先表敬訪問	Mr.Ridvan Dedeoğlu, General Director of General Directorate of Turkish Highways へあいさつ

日順	月日(曜日)	時間	行 程	内 容
			帰国研修員と面談 帰国研修員と面談	昭和49年度帰国研修員Mr.Tankut Balkir と面談 昭和48年度帰国研修員Mr.Serafettin Uzuner と面談
		12:00	帰国研修員と懇談会	Mr.Tankut, Mr.Uzunerをまじえ懇談
		14:00	現場視察	ハイウェイ工事現場視察
		19:30	大使館主催夕食会	成宮二等書記官, 高木館員と夕食
12	2月28日(土)		資料整理	
13	3月1日(日)	9:00	アンカラ発 現場視察	アンカラ～イスタンブール間ハイウェイ視察(ヨーロッパ5号線約450km)
		18:00	イスタンブール着	
14	3月2日(月)	11:00	帰国研修員と面談	昭和42年度帰国研修員Mr.Ozcan Saffettin Sile と面談
		14:00	現場視察	イスタンブール市内ハイウェイ視察
15	3月3日(火)	9:00 }	現場視察	橋梁関係視察(ボスボラス橋, ゴールデンホーン橋, アタチュルク橋, ガラタ橋他)
		17:00		
		19:00	イスタンブール総領事館主催夕食会	渡辺領事, 中軽米領事と夕食
16	3月4日(水)	10:00	イスタンブール総領事館訪問	渡辺領事へあいさつ, 中軽米領事へあいさつ, 業務報告書提出
		19:30	イスタンブール発	TK828 アブダビ経由
17	3月5日(木)	5:10	カラチ着	
18	3月6日(金)	00:40	カラチ発	J1474 バンコック経由
		15:30	東京着	

## 5. 調査方法

巡回指導班が出発する前に、在外公館あるいはJICA海外事務所を通じて、エジプトおよびトルコの帰国研修員にハイウェイセミナーに関する質問書(資料2)を送付し、面接時に回収し、主としてこれをもとに面談による調査を行った。

また、帰国研修員の所属する機関の上司と懇談し、あるいは道路建設現場等を視察して、ハイウェイセミナーに関するニーズの把握に努めた。

## II ハイウェイセミナーの概要と経緯

### 1. ハイウェイセミナーの概要

ハイウェイセミナーは昭和39年度に発足した。以来、昭和44年度を除いて毎年開催されており、昭和55年度で通算第16回目を迎えている。1回当りの研修員数は当初8人程度であったが、最近では15人前後に増員されており、昭和55年度までに参加した研修員の総数は32ヶ国200名に達している。

本セミナーは当初ハイウェイセミナーとして出発したが、アジア太平洋地域経済社会委員会(ESCAP)の要請により、昭和43年度にアジアハイウェイセミナーと改称し、アジアハイウェイ関係国を中心に研修員を招請した。その後昭和47年度に再びハイウェイセミナーと改称し、アジア地域以外の中近東、アフリカ、中南米からも研修員を招請している。

本セミナーの目的は、道路の建設と維持に関する技術の研修と新知識の習得を通じて、研修員の道路技術と道路の技術行政全般に関する実務能力の向上を図ることにある。したがって、本セミナーが対象としているのは、大学卒業程度以上の学力を有し、5年以上の経験のある40才以下の中堅技術者である。

研修期間は約50日間で、その内容は大きく分けて、日本事情オリエンテーション、講義、現場見学、研修旅行より構成されており、昭和55年度のカリキュラムでは、開講式およびオリエンテーション5日、講義10日、現場見学7日、研修旅行5日、レポート作成および閉講式2日の構成となっている。資料6に昭和55年度のハイウェイセミナースケジュールを示す。

### 2. 研修員受入の概要

次表にハイウェイセミナーの年度別、国別研修員一欄表を示す。



ハイウェーセミナー研修員国別リスト

国名	年度(年度)																	計
	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	
<b>【アジア】</b>																		
ビルマ				2										2	1	1	1	7
インド				2	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1			12
インドネシア	1	2		1	1		1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	15
マレーシア		1		3	1		1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	15
ネパール					1			1		1		1	1	1	1	1	1	9
パキスタン		1					2	1					1					5
フィリピン	1	1	3	1						1	1		1		1	1		11
シンガポール	1				1		1	2	1	1	1		1	1	1	1	1	13
スリランカ				1						1	1	1	1	1	1		1	8
タイ	1		1	2	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	16
バングラデシュ					1					1	1	2		1	1			7
ラオス	1		1	1	1													4
ヴェトナム	1				1		1	1	1	1	1							7
台湾				2														2
韓国									1									1
クメール									1	1	1							3
<b>【中近東】</b>																		
アフガニスタン	1				1			1		1	1	1	1	1	1	1		10
エジプト											1			1	1	2		5
イラン	1			1			2	1				1	1	1	1	1		10
サウディアラビア														1				1
シリア			1															1
トルコ			1	1						1	1	1	1				1	7
スーダン															1		1	2
<b>【アフリカ】</b>																		
象牙海岸															1			1
ケニア									1						1	1	1	4
タンザニア									1	1	1	1	1			1		6
ナイジェリア				1														1
エチオピア									1	1	1	1	1	1				6
リベリア													1					1
<b>【中南米】</b>																		
ブラジル									1				1	1		1	2	6
ボリヴィア											1		1					2
コロンビア																1	1	2
32 ヶ国	8	5	7	18	10	0	9	11	12	14	15	13	17	16	16	15	14	200

### Ⅲ 各国別調査内容

#### 1. 概 要

ハイウェイセミナーの帰国研修員の数はエジプト5名およびトルコ7名の合計12名であり、今回の巡回指導において面談することができた者はこのうちエジプト2名およびトルコ4名の合計6名である。

巡回指導班は出発に先立って在外公館あるいはJICA 海外事務所を通じて帰国研修員に対してハイウェイセミナーに関する質問書を送付したが、面談することができた者からはすべて回収でき、これをもとに面談による調査を実施した。なお面談できなかった帰国研修員のうちトルコの1名からは、後日質問書を回収することができた。

#### 2. エジプト

##### 1) 調査の概要

エジプトの帰国研修員は合計5名であるが、そのうちGeneral Organization for Roads and Bridges に勤務するMr. Aballah Mangoud El Saadany (昭和54年度の帰国研修員) とMr. Safwat Kamel Minadous の2名に面談し、調査することができた。他の3名は現在国外に出ているため面談できなかった。

General Organization for Roads and Bridges はMinistry of Transport の指導監督のもとに国道の建設および維持管理を行う機関であり、その下に8地域の国道をそれぞれ担当する8地方事務所が設置されている。組織図は図(1)、図(2)のとおりである。

Mr. Aballah Mangoud El Saadany はCentral Zone Office のFirst engineer であるが、同氏とは2月19日に同氏の事務所で面談し、調査することができた。また同氏の上司とも懇談する機会を得た。さらに同氏の案内でカイロ市内の道路視察を行った。

Mr. Safwat Kamel Minadous はCanal and Sinai Zone Office のConstruction Manager であるが、同氏とは2月22日に同氏の事務所で面談し、調査することができた。また同氏の案内でSuez 地区の道路視察を行った。

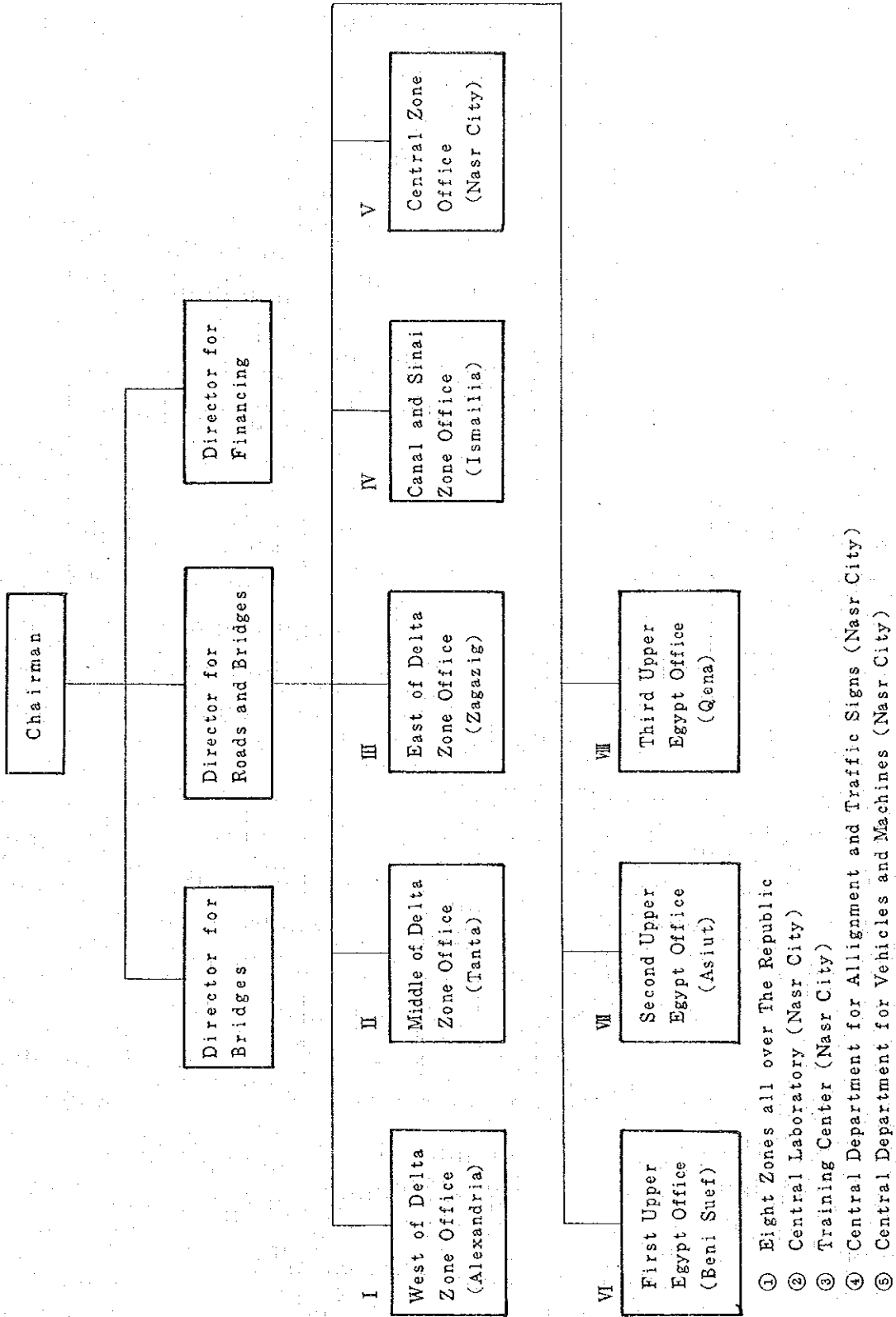
また、カイロ～アレキサンドリア間の砂漠道路、農業道路およびカイロ～イスマイリア間の道路の視察を行った。

##### 2) 調査結果

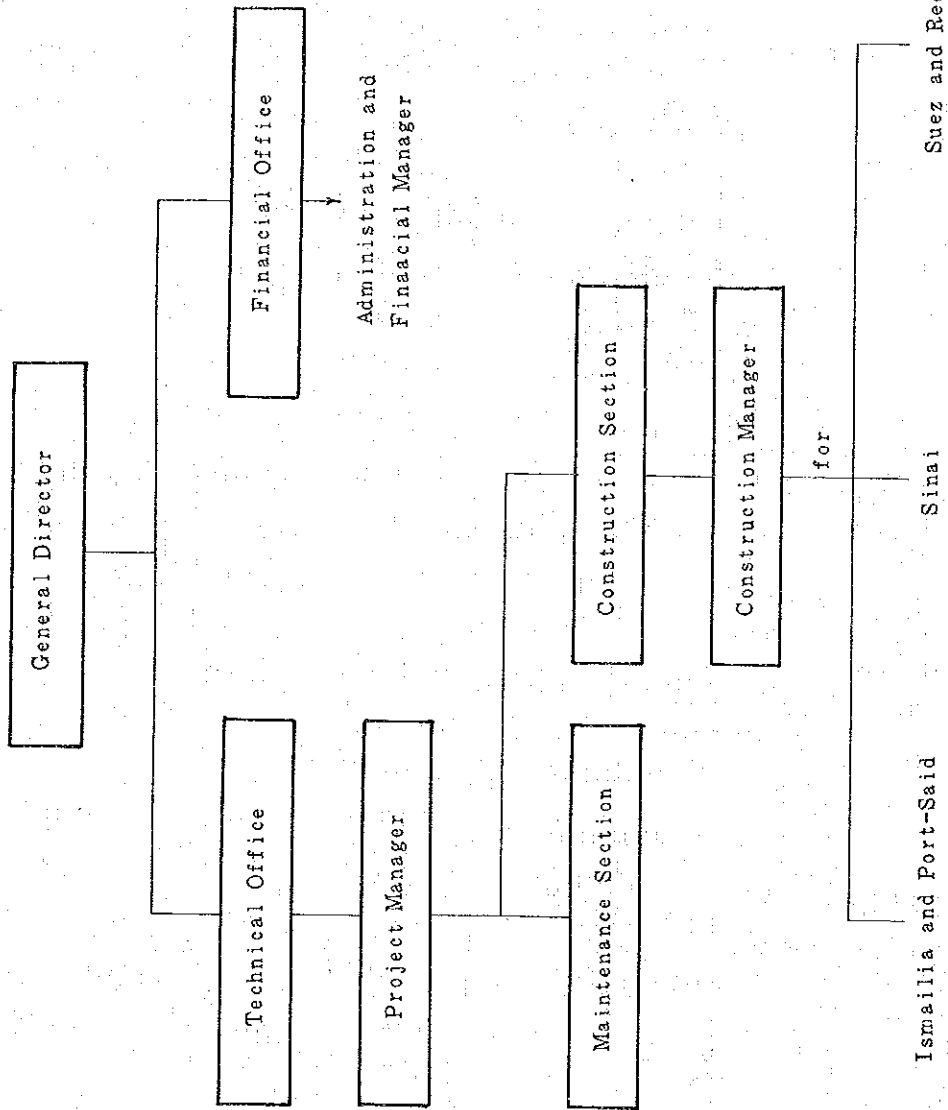
###### ① 研修員受入事業に関する提言

両帰国研修員の研修に対する評価は非常に高いものがあつたが、セミナーに関して

☒ (1) General Organization for Roads and Bridges



☒ (2) Canal and Sinai Zone Office



次のような改善等の意見を得た。

- (1) 建設機械に関する講義をふやす。
- (2) 幾何構造設計に関する講義を重点とする。
- (3) 現場見学をふやす。
- (4) 現場での実地作業をとり入れる。
- (5) 時期は春が望ましい。
- (6) 期間を2ヶ月に延ばす。

② フォローアップ事業に関する要望

- (1) 最新の技術的情報を定期的を送付してほしい。
- (2) 帰国研修員を対象とした上級クラスを設立してほしい。

エジプトにおける業務の報告書を作成し、JICA 海外事務所を通じてエジプトの関係機関へ提出した(資料4)。

### 3. トルコ

#### 1) 調査の概要

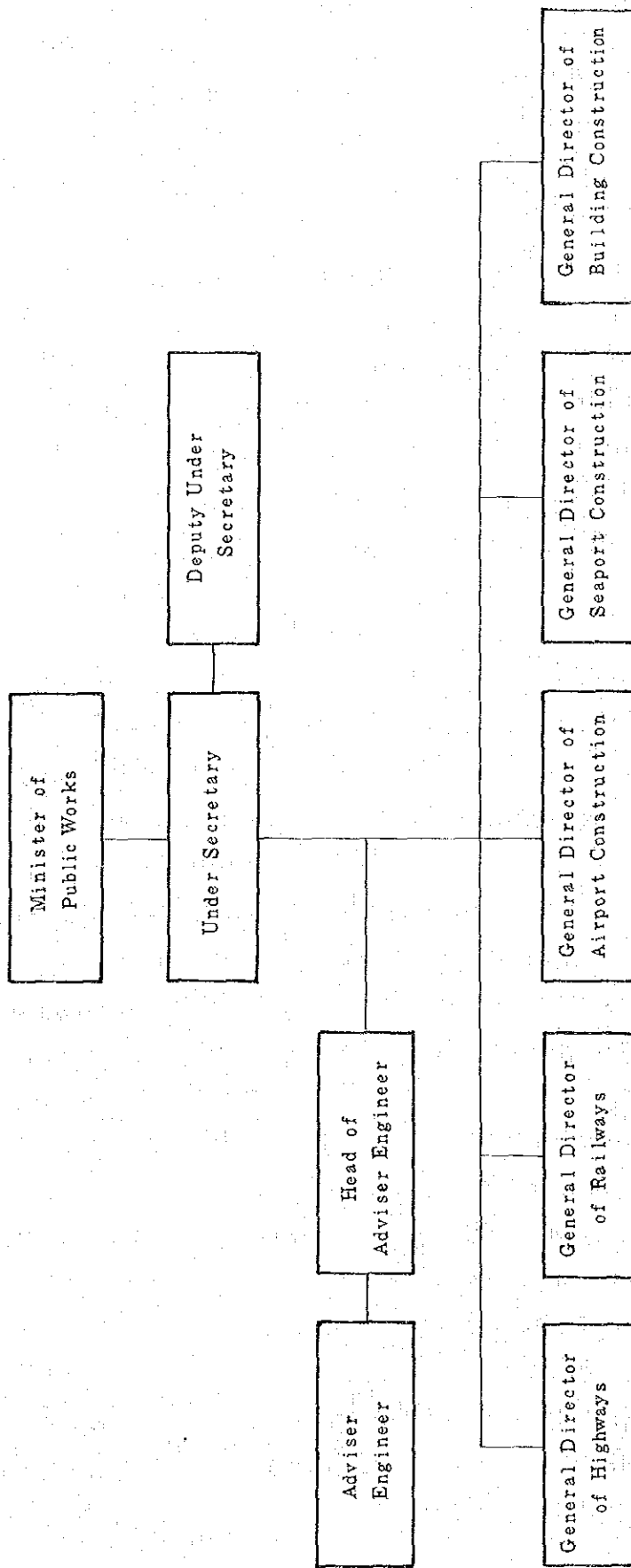
トルコの帰国研修員は合計7名であるが、そのうちGeneral Directorate of Turkish Highways に勤務するMr. Ersoy Özer (昭和55年度の帰国研修員)とMr. Tankut Balkir (昭和49年度の帰国研修員), Ministry of Public Works の Head Adviser Engineer のMr. Serafettin Uzuner (昭和48年度の帰国研修員) およびA.V.Menger Holding A.S. の役員のMr. Ozcan Saffettin Sile (昭和42年度の帰国研修員) の4名と面談し調査することができた。他の3名は国外に出ているなどの理由により面談できなかったが、そのうちMr. A. Erdogan Yaramanoglu (昭和41年度帰国研修員, METIS LTD, STI, 勤務)からは後日質問書を回収することができた。

General Directorate of Turkish Highways はMinistry of Public Works の下に国道の建設および維持管理を行う機関であり、内局の外に18の地方事務所が設置されている。組織図は図(1), 図(2), 図(3)のとおりである。

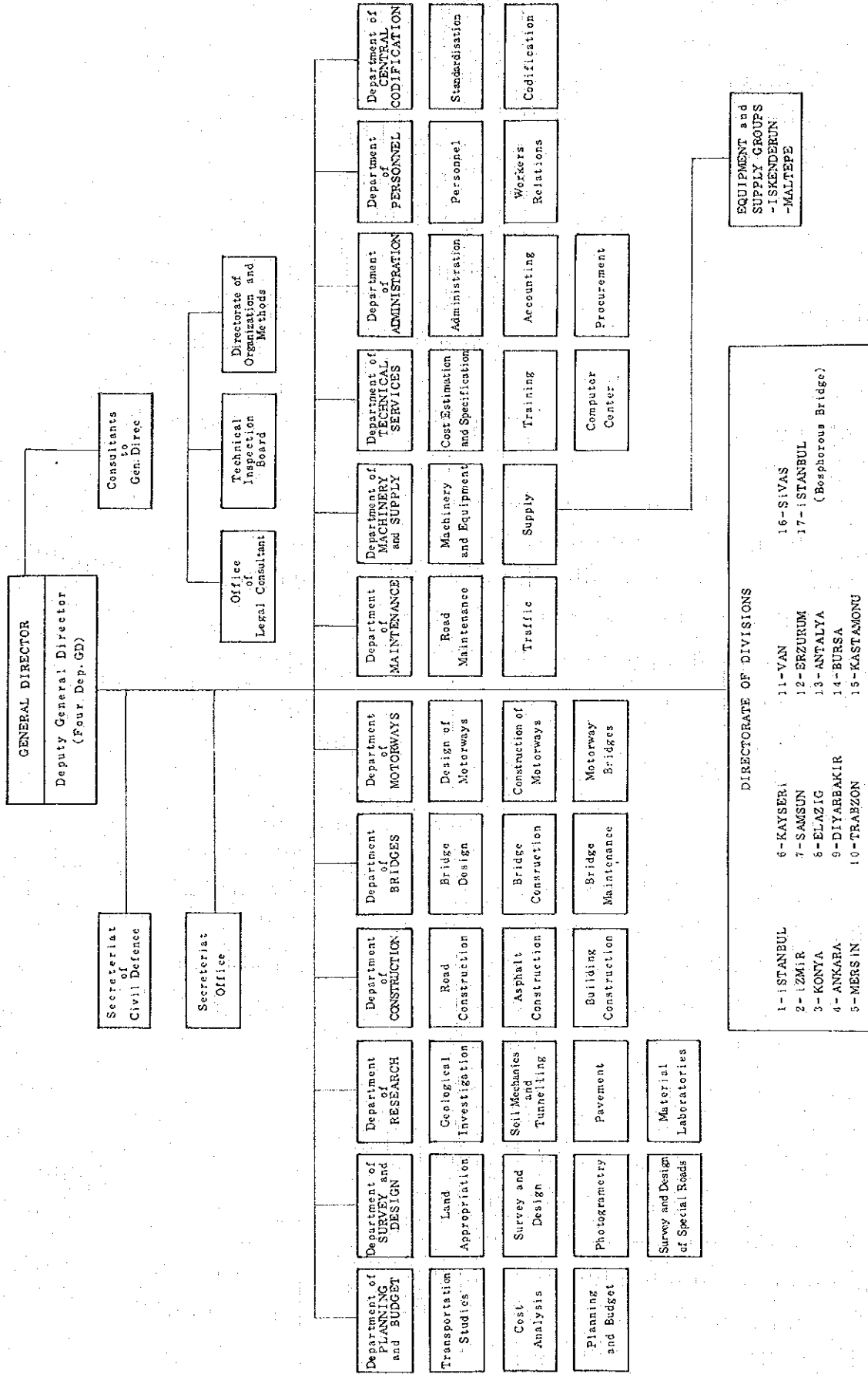
Mr. Ersoy Özer はSecond Division におけるResearch Section のHeadであるが、同氏とは2月25日に同氏の事務所で面談し、調査することができた。また同氏の上司であるMr. Nazmi Zarif とも懇談する機会を得た。さらに同氏の案内でIzmir ~ Ankara 間(約90km)の道路視察を行った。

Mr. Tankut Balkir はDepartment of ResearchのHeadであるが同氏とは2月27日に同氏の事務所で面談し、調査することができた。また同氏の上司であるMr. Ridvan Dedeoglu とも懇談する機会を得た。

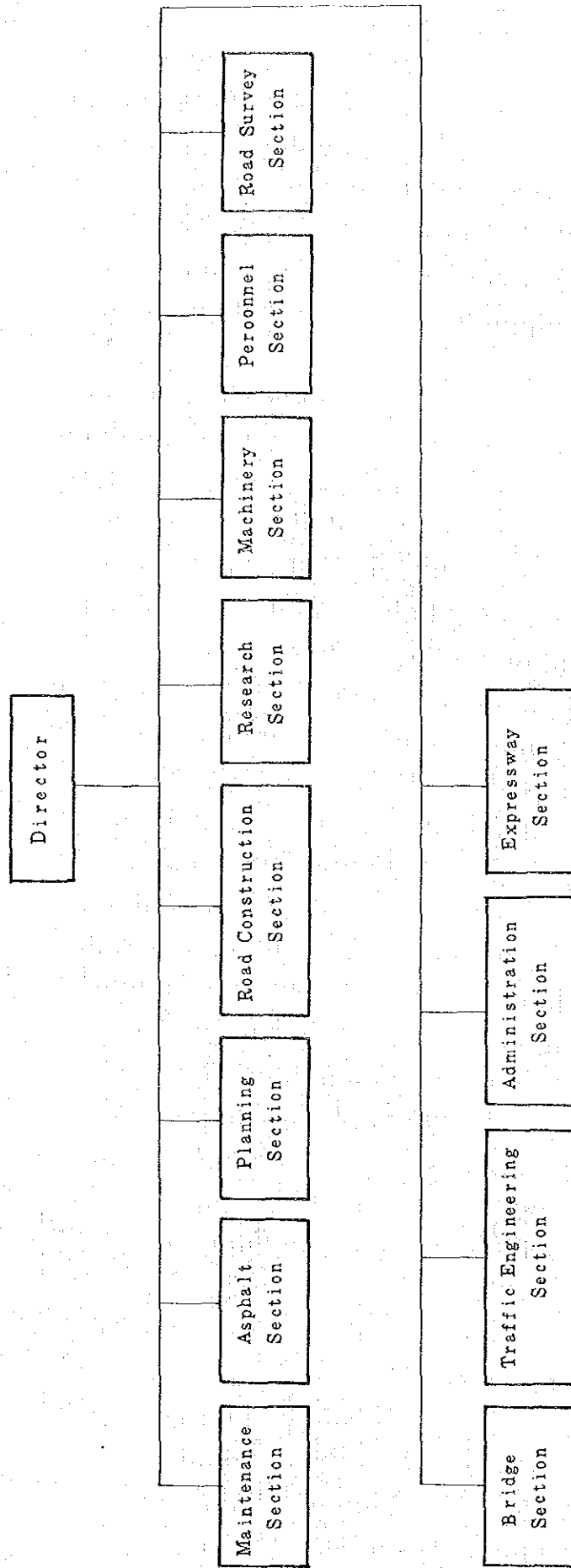
☒ (1) Ministry of Public Works



☒ (2) General Directorate of Turkish Highways



☒ (3) 2nd Division of Turkish Highways





Mr.Serafettin Uzuner は前General Director of Highwaysであり、現在 Ministry of Public Works のHead of Adviser Engineer であるが、同氏とは2月27日に懇談する機会を得た。

Mr.Ozcan Saffettin Sileは現在A.V.Menger Holding A.S.の役員をしており3月2日に懇談することができた。

## 2) 調査結果

### ① 研修員受入事業に関する提言

いずれの帰国研修員からも非常に高い研修に対する評価を得たが、セミナーに関して次のような提言を得た。

- (1) 時期を9～10月に変更する。
- (2) 時期を4～5月に変更する。
- (3) 期間を8週間に延長する。
- (4) 講義の前にテキストを配布する。
- (5) 言葉の問題の解消をはかる。
- (6) 橋梁よりも土工、維持、法面工の現場見学が望ましい。
- (7) より多くの現場見学をする。
- (8) 費用の増額が必要である。

### ② フォローアップ事業に関する要望

- (1) 最新の技術的情報を定期的を送付してほしい。

トルコにおける業務の報告書を作成し、総領事館、大使館を通じてトルコの関係機関へ提出した(資料5)。

## IV 調査結果のとりまとめ

今回のエジプトおよびトルコでのハイウェイセミナー帰国研修員に対する巡回指導による調査結果をとりまとめるとつぎのとおりである。

### 1. 帰国研修員の活動状況とハイウェイセミナーに対する評価

今回面談することができた帰国研修員はいずれもそれぞれの機関において重要なポストにあり、研修成果をその業務に活用している。したがってハイウェイセミナーは帰国研修員および所属機関の上等から高く評価されており、今後の継続ならびに内容の充実の要望が強い。

### 2. 研修員受入事業に関する提言

今回面談することのできた帰国研修員の研修年度は昭和42年度から昭和55年度まで広がっており、受けた研修内容も年度によって異なった部分があったものと思われるが、これら帰国研修員から得られた研修員受入事業に関する意見を列挙すると以下のようである。

#### 1) 時 期

- ① 9～10月に変更する。
- ② 4～5月に変更する。

#### 2) 期 間

- ① 8週間に延長する。

#### 3) 講義科目

- ① 建設機械に関する講義をふやす。
- ② 幾何構造設計に関する講義をふやす。

#### 4) 講義テキスト

- ① 事前にテキストを配布する。
- ② 講義およびテキストとも英語で用意する。

#### 5) 現場見学

- ① 機会をふやす。
- ② 橋梁よりも土工、維持作業、法面工の現場を主体とする。
- ③ 現場での実地作業をとり入れる。

#### 6) 研修費用

- ① 研修費用を増額する。

### 3. フォローアップ事業に関する要望

#### 1) 情報提供

① 最新の技術情報を定期的に送付してほしい。

#### 2) 上級コース

① 帰国研修員を対象とした上級コースを設けてほしい。

## V 結 論

ハイウェイセミナーは、昭和39年以来、世界各地の発展途上国からこれまでに合計200名の研修員を受入れ、これらの国々における道路技術者の養成に貢献してきている。

今回の巡回指導により、エジプトおよびトルコの合計6名の帰国研修員をはじめ、これらの国における道路行政関係機関の要人と面談する機会を得たが、これらを通じて帰国研修員の活躍状況やハイウェイセミナーに対する高い評価を知ることができた。

今回得られた調査結果をもとに、ハイウェイセミナーの研修員受入事業およびフォローアップ事業に関して次のような提言をしたい。

### 1. 研修内容の充実

研修の時期および期間については現行の10～11月および7週間を大巾に手直しする必要はないように思われる。講義の内容およびテキストについては一層の充実が必要である。また現場見学は、その対象の選定に留意し、現場における実地作業の導入も検討すべきであろう。

### 2. フォローアップ制度の確立

帰国研修員のほとんどが最新の技術情報の定期的な送付を望んでおり、これを可能にする制度の確立が急務である。

なお帰国研修員を対象とした上級コースの設置の要望があるが、現在のハイウェイセミナーの効果的な実施との関係で検討は慎重に行う必要がある。

ハイウェイセミナーの帰国研修員に対する巡回指導は昭和51年2月14日から2月29日までの16日間タイ、インドおよびイランを対象に橋梁工学コースともあわせて実施され、それによって数多くの有益な提言がなされ、それ以後のハイウェイセミナーの充実に貢献してきたものと思う。今回のエジプトおよびトルコへの巡回指導において、さらに上記のような提言を行った。ハイウェイセミナーの今後の一層の充実に役立てられればさいわいである。

最後に、今回の巡回指導に際して御協力を賜った現地の在外公館ならびにJICA 海外事務所の関係各位に対して感謝の意を表します。



資料 2 QUESTIONNAIRE

Please reply the following questions. (Please write in block letters or type-write.)

1. General Question

- (1) Your Name:
- (2) Year of your attendance at the seminar:
- (3) Home address:
- (4) Occupation and position:
  - A. At time you attended the seminar  
Office  
Position
  - B. At the present time  
Office and address  
Position (please describe your responsibility in detail)
- (5) Please show a chart of the organization in your Ministry (or Department) and indicate your section or position in annexed paper.
- (6) If you are facing any technical problem at the present, please describe it.

2. Question on the seminar you attended

(1) Could you frankly say whether the seminar you attended was efficient to your work after returning home?

A. If yes, for what field?

B. If no, for what reason?

(2) Do you have any proposal / suggestions for the improvement of the seminar?

A. Duration and season of the seminar

B. Lectures

C. Field trip

D. Accommodation

E. Other comments

3. Question on the follow-up service for Ex-participant of J I C A

(1) What kind of follow-up service do you request?

(2) Others, if any.

4. Do you have any request to the Japan International Cooperation Agency (JICA) or Ministry of Construction (MOC) concerning the seminar?

Thank you very much.

資料 3 LIST OF EX-PARTICIPANTS OF HIGHWAY SEMINAR (EGYPT)

<u>Participated Year</u>	<u>Name</u>	<u>Present Post</u>	<u>Official Address &amp; Post (Past)</u>	<u>Home Address</u>
1...	Mr. Hossam Yasin Hessen		Chief of Road Maintenance Sec. Egyptian Organization of Roads and Bridges	c/o Roads and Bridges
2.	Mr. Hohamed Zaki Mahmoud		Resident Engineer for Highway and Airport Construction Projects, The General Nile Co., Roads and Bridges	Faculty of Engineering, Ain-
3.	Mr. Safwat Kamel Mkinadous	Construction Manager of Canal and Sinal Zone Office, General Organization for Roads and Bridges	Supervision Engineer in Canal and Sinla Area Egypt, Ministry of Transport	27/ Dr. Abed El Aziz Ismaiel St. Hillopolis, Cairo, Egypt
4.	Mr. Aballah Mangoud El Saadany	First Engineer of Central Zone Office General Organization for Roads and Bridges	Construction and Maintenance of Roads Supervision of Highways Projects Planning	72 St. of 30 Mars, Dar el Salam, Cairo, Egypt
5.	Mr. Mohamed Salah E. Saleh		Director and Eslgner of Aswan-Wadi Halca Road Project, 1969-79, Engineer in the General for Roads and Water Ways	7 El Kebli St. Helwan, Cairo, Egypt



LIST OF EX-PARTICIPANTS OF HIGHWAY SEMINAR (TURKEY)

Participated Year	Name	Present Post	Official Address & Post (Past)	Home Address
1. 1966	Mr. Erdogan Ali Yaramanoglu	Active partner and executive member of the board of directors of a group of construction companies	Assistant of Chief Engineer of Road Construction Dept. General Directorate of Highways	Yukseil Cad. 28/12 Yenisehir, Ankara
2. 1967	Mr. Ozcan Safettin Sile	Member of executive committee A.V. Menger Holding A.S.	Assistant to Director of the First Division of Highway Dept. General Directorate of Highways	Ziverbey, Kayisdagi Cad. No. 27 B, D.26 Kadiköy, Istanbul
3. 1973	Mr. Serafettin Uzuner	Head Adviser Engineer Ministry of Public Works	Director of Asphalt Pavement of the Construction Dept. General Directorate of Highways	1. Cadde 11, Sokak No. 19/5 Bahcelievler, Ankara
4. 1974	Mr. Tankut Balkir	Head of Research Department General Directorate of Turkish Highways	Deputy Director of Research and Materials Div. General Directorate of Turkish Highways	Sedat Simavi Sok, 39/A Daire 8, Cankayor, Ankara
5. 1975	Mr. Mehmet Uluçayli		Assistant Professor Dr. Civil Engineering Dept. Middle East Technical Univ.	Orta Dogu Tekniku Univ. Lojmanlari No. B-2, Ankara, Turkey
6. 1976	Mr. Tefvik Ergun		Chief of Economic Analysis, Planning Div. General Directorate of Highways	Ankara
7. 1980	Mr. Ersoy Ozer	Research and Materials Chief Engineer Second Div. of Turkish Highways, Izmir General Directorate of Highways	Research and Materials Chief Engineer Second Div. of Turkish Highways, Izmir General Directorate of Highways	No. 1/22, Izmir, Turkey

February 23, 1981

To whom it may concern:

Summarized Report on activities conducted in Egypt by Follow-up Team of Highway Construction Seminar for ex-participants of JICA.

1. Objective of dispatch of the team:

This team is organized in order to know how and to what extent the ex-participants on Highway Construction Seminar are making use of the knowledge and technology they acquired in Japan and what they think are required for improving our seminar so that their views may be reflected in our future seminar.

2. Period:

From February 18, 1981 to February 23, 1981 (6 days)

3. Members:

- (1) Mr. Ninoru FUJIWARA  
Deputy Director  
National Highway Second Division  
Road Bureau  
Ministry of Construction
- (2) Mr. Yukio ISHIDA  
Training Officer  
First Training Division  
Training Affairs Department  
Japan International Cooperation Agency

4. Activities:

- Feb. 18 (Wed.) \* Arrival in Cairo at 2:30 by JAL 463  
\* Briefing session at JICA Office at 13:00  
\* Courtesy call to Japanese Embassy
- Feb. 19 (Thu.) \* Courtesy call to Central Zone Office  
(Nasr City) of General Organization for  
Roads and Bridges at 10:00, accompanied  
by Mr. Fujita of JICA Office  
\* Meeting with ex-participant (1979),  
Mr. Aballah Mangoud El Saadany,  
First Engineer of Central Zone Office  
\* Lunch by Mr. Aballah Mangoud El Saadany  
at 15:00  
\* Observation in Cairo City with  
Mr. Aballah Mangoud El Saadany
- Feb. 20 (Fri.) \* Observation of Desert Highway from Cairo  
to Alexandria and of Agricultural Highway  
from Alexandria to Cairo, accompanied by  
Mr. Fujita
- Feb. 21 (Sat.) \* Observation of Roads in Cairo City  
\* Meeting with Dr. Nabil Sehsah, Engineer  
of Pacific Consultants International, on  
general matter of Highways in Egypt
- Feb. 22 (Sun.) \* Observation of Highway from Cairo to  
Ismailiya accompanied by Mr. Fujita  
\* Meeting with ex-participant (1978),  
Mr. Safwat Kamel Minadous, Construction  
Manager of Canal and Sinai Zone Office of  
General Organization for Roads and Bridges  
\* Observation of Working Sites of Highways  
with Mr. Safwat Kamel Minadous  
\* Lunch by Mr. Safwat Kamel Minadous at  
16:00
- Feb. 23 (Mon.) \* Report making at JICA Office  
\* Courtesy call to Japanese Embassy

5. Comments in Summary:

- (1) Among five(5) ex-participants of Highway Construction Seminar in Egypt, we could meet two(2) ex-participants during our stay. Through meeting with them, we could see their activities and obtain their proposal for improvement of the seminar and needs to follow-up services on the seminar.
- (2) Both of them are engaged in important position of General Organization for Roads and Bridges. They seem to do their activities effectively using of their knowledge and techniques acquired in Japan.
- (3) Although seminar they had attended was very useful, they made some opinion for the improvement of the seminar as follows:
  - a) More lecture on Machinery
  - b) Press on Geometrical designs
  - c) Increase the number of field trip
  - d) Make practical training at the site
  - e) Change the season to Spring
  - f) Extend the duration to two months
- (4) Their suggestion on follow-up service are as follows:
  - a) They want up-to-date information sent regularly.
  - b) They request to make advanced seminar for ex-participants.

We consider that it is difficult to prepare the advanced Highway Construction Seminar under the Present circumstances.

Finally, we would like to express our heartfelt gratitude to two (2) ex-participants and authorities concerned for their kind arrangement and hospitality. We hope that seminar will be improved in the near future based on the result of our activities.

March 4, 1981

To whom it may concern:

Summarized Report on activities conducted in Turkey by Follow-up Team of Highway Construction Seminar for ex-participants of JICA.

1- Objective of dispatch of the team:

This team is organized in order to know how and to what extent the ex-participants on Highway Construction Seminar are making use of the knowledge and technology they acquired in Japan and what they think are required for improving our seminar so that their views may be reflected in our future seminar.

2- Period:

From February 24, 1981 to March 4, 1981 (9 days)

3- Members:

- 1) Mr. Minoru FUJIWARA  
Deputy Director  
National Highway Second Division  
Road Bureau  
Ministry of Construction
- 2) Mr. Yukio ISHIDA  
Training Officer  
First Training Division  
Training Affairs Department  
Japan International Cooperation Agency

4- Activities:

- Feb. 24 (Tue.) : Arrival in Istanbul at 18:00 by KLM 556  
: Courtesy call to Consulate General of Japan  
\* Leave Istanbul at 12:30 by TK 326  
\* Arrival in Izmir at 13:20  
\* Courtesy call on Mr. Nazmi Zrif, Director of Second Division of Turkish Highways  
\* Meeting with ex-participant (1980), Mr. ERSOY Ozer, Chief Engineer of Research Section of Second Division of Turkish Highways  
\* Observation of Highways (E 23, 90 km) from Izmir to Construction Site with Mr. Ersoy Ozer  
\* Dinner at Mr. Ersoy's home
- Feb. 26 (Thu.) : Leave Izmir at 7:00 by TK 202  
\* Arrival in Ankara at 8:10  
\* Courtesy call to Japanese Embassy  
\* Meeting with Mr. Takagi about our schedule
- Feb. 27 (Fri.) : Courtesy call on Mr. Ridvan Dedeoglu, General Director of General Directorate of Turkish Highways at 10:00  
\* Meeting with ex-participant (1974), Mr. Tankut Balkir, Head of Research Department of General Directorate of Turkish Highways at 11:00  
\* Meeting with ex-participant (1973), Mr. Serafettin Uzuner, Head Adviser Engineer of Ministry of Public Works at 11:45  
\* Lunch with Mr. Tankut Balkir and Mr. Serafettin Uzuner

- Feb. 28 (Sat.) : Report making
- Mar. 1 (Sun.) : Observation of Highway from Ankara to  
Istanbul (E 5, 450 km for 9 hours)
- Mar. 2 (mon.) : Teeting with ex-participant (1967),  
Mr. Ozcan Saffettin Sile
- Mar. 2 (Tue.) : Observation of Highway and Bridges in  
Istanbul (E5)  
\* Report making
- Mar. 4 (Wed.) : Report to Consolate General of Japan

5- Comments in Summary:

- 1) Among seven(7) ex-participants of Highway Construction Seminar in Turkey, we could meet four(4) ex-participants during our stay. Through meeting with them, we could see their activities and obtain their proposal for improvement of the seminar and needs to follow-up services on the seminar.
- 2) Four of them are engaged in important position of each organisation. They seem to do their activities effectively using of their knowledge and techniques acquired in Japan.
- 3) Although seminar they had attended was very useful, they made some opinion for the improvement of the seminar as follows:
  - a) Change the season to September and October
  - b) Change the season to April and May
  - c) Extend the duration to eight weeks
  - d) Distribution of Text prior to lecture
  - e) Be no language difficulties
  - f) More road construction, maintenance and slope protection work rather than bridge construction in field trip
  - g) More field trip for surveying all kinds of work
  - h) Increase the allowance
- 4) Their suggestion on follow-up service are as follows:
  - a) They want up-to-date information sent regularly

Finally, we would like to express our heartfelt gratitude to four (4) ex-participants and authorities concerned for their kind arrangement and hospitality. We hope that seminar will be improved in the near future based on the result of our activities.



## 昭和55年度ハイウェイセミナースケジュール

月 日	曜日	午前 (10:00~12:00)	午後 (13:30~16:00)	
10月 9日	木	来 日		
10日	金	}		
11日	土			フリー
12日	日			
13日	月	}		
14日	火			
15日	水			オリエンテーション
16日	木			
17日	金	}		
18日	土			フリー
19日	日			
20日	月	日本の道路	道路に係る法令等	
21日	火	道路計画	都市内道路計画	
22日	水	有料道路制度	都市内高速道路	
23日	木	首都高速道路および湾岸道路見学		
24日	金	都市間高速道路	道路交通工学	
25日	土	}		
26日	日			フリー
27日	月			
28日	火	}		
29日	水			研修旅行
30日	木			(中部地方, 近畿地方)
31日	金			
11月 1日	土	}		
2日	日			フリー
3日	月			
4日	火			道路土工

月	日	曜日	午前 (10:00~12:00)	午後 (13:30~16:00)
11	5	水	幾何構造基準	橋梁上部工
	6	木	} 北関東方面見学	
	7	金		
	8	土	} フリー	
	9	日		
	10	月	東京 → 筑波	筑波学園都市見学
	11	火	土木研究所見学	(同左)
	12	水	建設機械	橋梁下部工
	13	木	アスファルト舗装	コンクリート舗装
	14	金	新交通システム	筑波 → 東京
	15	土	} フリー	
	16	日		
	17	月	沿道環境問題	道路の維持管理
	18	火	横浜方面見学 (共同溝, 都市内工事)	
	19	水	} 現場見学	
	20	木		
	21	金	レポート作成	
	22	土	} フリー	
	23	日		
	24	Ⓜ		
	25	火	閉講式	
	26	水	帰国準備	
	27	木	帰国	







JICA